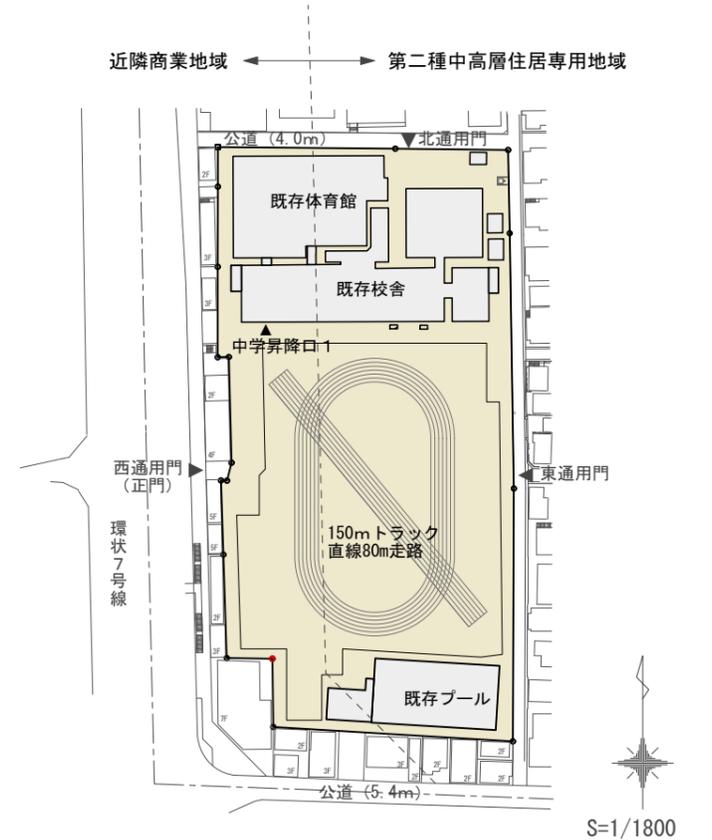
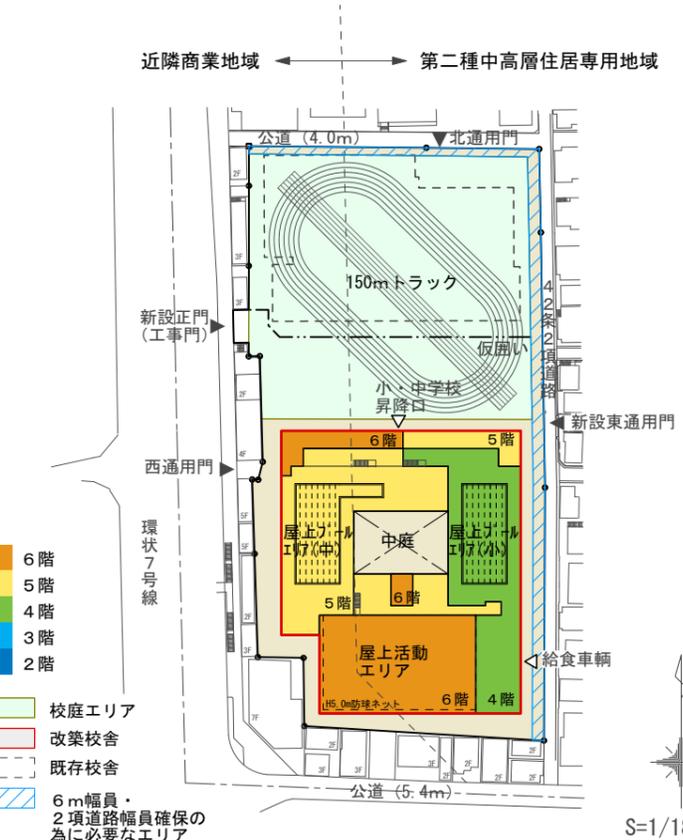
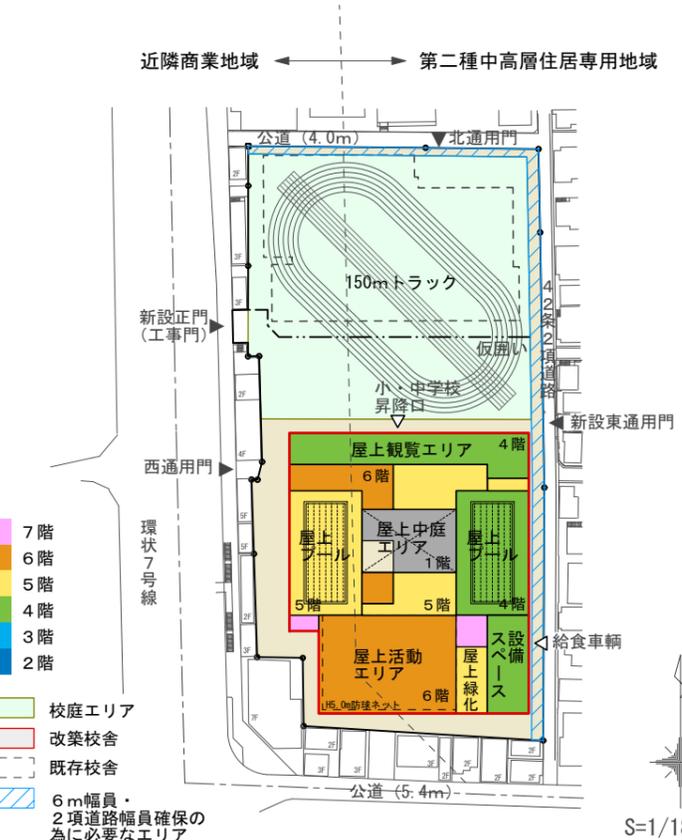
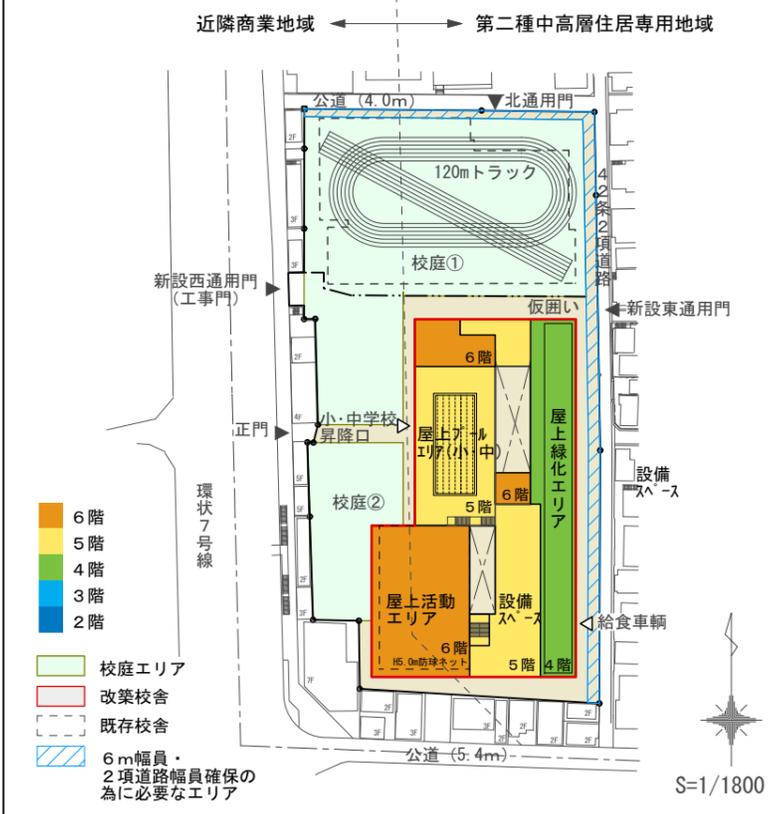
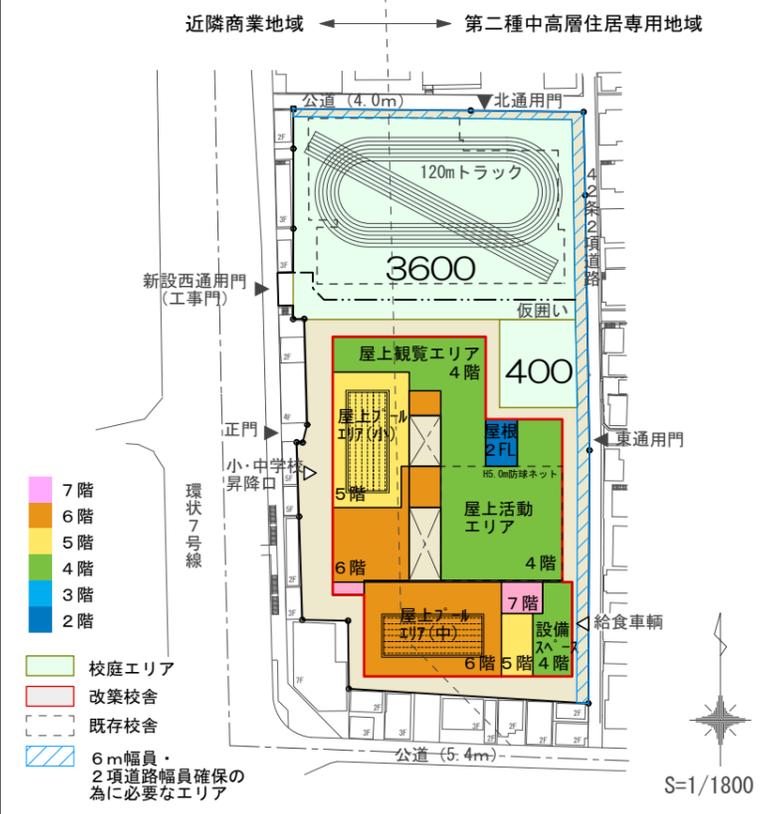


配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	既存校舎 建築面積 約 4,006㎡ 延床面積 約 5,926㎡ 校庭面積 約 5,300㎡	A. 南側配置案 (仮設校舎なし) 建築面積 約 4,000㎡ 屋上活動エリア 約 990㎡ 延床面積 約 16,320㎡ 校庭面積 約 4,800㎡	A-1. 南側配置案 (仮設校舎なし) 建築面積 約 4,160㎡ 屋上活動エリア 約 850㎡ 延床面積 約 16,200㎡ 外部観覧エリア 約 500㎡ 校庭面積 約 4,800㎡
配置イメージ	 <p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>公道 (4.0m) 北通用門</p> <p>既存体育館</p> <p>既存校舎</p> <p>中学昇降口1</p> <p>150mトラック 直線80m走路</p> <p>既存プール</p> <p>西通用門 (正門)</p> <p>東通用門</p> <p>環状7号線</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p>	 <p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>公道 (4.0m) 北通用門</p> <p>150mトラック</p> <p>仮備い</p> <p>小・中学校 昇降口</p> <p>新設正門 (工事門)</p> <p>新設東通用門</p> <p>西通用門</p> <p>環状7号線</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p> <p>6階 5階 4階 3階 2階</p> <p>校庭エリア 改築校舎 既存校舎 6m幅員・2項道路幅員確保の為に必要なエリア</p>	 <p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>公道 (4.0m) 北通用門</p> <p>150mトラック</p> <p>仮備い</p> <p>小・中学校 昇降口</p> <p>新設正門 (工事門)</p> <p>新設東通用門</p> <p>西通用門</p> <p>環状7号線</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p> <p>7階 6階 5階 4階 3階 2階</p> <p>校庭エリア 改築校舎 既存校舎 6m幅員・2項道路幅員確保の為に必要なエリア</p>
学習・生活・交流		<ul style="list-style-type: none"> ・外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 ・中庭に面した場合でも、中庭からの採光と通風確保が可能。 ・回遊性のある平面計画が可能。移動動線内を交流空間として計画することで、児童生徒の交流を促す計画が可能。 ・最も校庭面積を広く確保出来る配置計画。 ・校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 ・野球等のレイアウトがしやすい整形な校庭。 ・150mトラック、直線80m走路の計画が可能。 ・児童生徒の登下校の動線は、新設の正門と東門の利用を想定。 ・給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 ・屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 ・屋上活動エリアは約990㎡確保可能。 ・既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・同左 ・同左 ・同左 ・屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 ・屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 ・屋上観覧エリアの確保が可能な計画。 ・同左
環境周辺		<ul style="list-style-type: none"> ・日影については、最も近隣への影響が少ない計画。 ・南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 ・東側の住宅地への日影の配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日影については、最も近隣への影響が少ない計画。 ・南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 ・東側の住宅地への日影の配慮が必要。 ・西側の住宅地のプライバシーの配慮と日影の配慮が必要。
工事関連		<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト縮減が可能。 ・比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 ・既存校舎の解体工事エリアも確保しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・同左

配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	B. 南東側配置案 (仮設校舎なし)	B-1. 南西側配置案 (仮設校舎なし)	建築面積 約 4,050㎡ 屋上活動エリア 約 900㎡ 延床面積 約16,000㎡ 校庭面積 ①約 3,850㎡ ②約 870㎡ 合計 約 4,720㎡	建築面積 約 4,000㎡ 屋上活動エリア 約 900㎡ 延床面積 約17,000㎡ 校庭面積 ①約 3,600㎡ ②約 400㎡ 合計 約 4,000㎡																																																				
配置イメージ																																																								
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="192 1199 261 1276">学習・生活・交流</td> <td data-bbox="261 1199 474 1276">普通教室 (配置・採光・通風)</td> <td data-bbox="507 1199 1279 1276"> <ul style="list-style-type: none"> 南北に長い校舎となるため、外部に面した東、西側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。 </td> <td data-bbox="1288 1199 1537 1276">△</td> <td data-bbox="1546 1199 2059 1276"> <ul style="list-style-type: none"> 外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 面積は小さいが、中庭からの採光と通風確保が可能。 </td> <td data-bbox="2068 1199 2318 1276">○</td> <td data-bbox="2326 1199 2834 1276"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1283 261 1360">環周境辺</td> <td data-bbox="261 1283 474 1360">敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線)</td> <td data-bbox="507 1283 1279 1360"> <ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 </td> <td data-bbox="1288 1283 1537 1360">○</td> <td data-bbox="1546 1283 2059 1360"> <ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 </td> <td data-bbox="2068 1283 2318 1360">○</td> <td data-bbox="2326 1283 2834 1360"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1367 261 1444">環周境辺</td> <td data-bbox="261 1367 474 1444">校庭 (日影・広さ・レイアウト)</td> <td data-bbox="507 1367 1279 1444"> <ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 </td> <td data-bbox="1288 1367 1537 1444">△</td> <td data-bbox="1546 1367 2059 1444"> <ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 </td> <td data-bbox="2068 1367 2318 1444">△</td> <td data-bbox="2326 1367 2834 1444"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1451 261 1528">環周境辺</td> <td data-bbox="261 1451 474 1528">アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離)</td> <td data-bbox="507 1451 1279 1528"> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 </td> <td data-bbox="1288 1451 1537 1528">◎</td> <td data-bbox="1546 1451 2059 1528"> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 </td> <td data-bbox="2068 1451 2318 1528">◎</td> <td data-bbox="2326 1451 2834 1528"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1535 261 1612">環周境辺</td> <td data-bbox="261 1535 474 1612">屋上活動エリアの確保 (プール・広さ)</td> <td data-bbox="507 1535 1279 1612"> <ul style="list-style-type: none"> 法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 屋上活動エリアは約900㎡確保可能。 </td> <td data-bbox="1288 1535 1537 1612">○</td> <td data-bbox="1546 1535 2059 1612"> <ul style="list-style-type: none"> 屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 </td> <td data-bbox="2068 1535 2318 1612">◎</td> <td data-bbox="2326 1535 2834 1612"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1619 261 1696">環周境辺</td> <td data-bbox="261 1619 474 1696">仮設校舎の有無</td> <td data-bbox="507 1619 1279 1696"> <ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 </td> <td data-bbox="1288 1619 1537 1696">○</td> <td data-bbox="1546 1619 2059 1696"> <ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 </td> <td data-bbox="2068 1619 2318 1696">○</td> <td data-bbox="2326 1619 2834 1696"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1703 261 1780">環周境辺</td> <td data-bbox="261 1703 474 1780">工期とコスト</td> <td data-bbox="507 1703 1279 1780"> <ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 </td> <td data-bbox="1288 1703 1537 1780">◎</td> <td data-bbox="1546 1703 2059 1780"> <ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 </td> <td data-bbox="2068 1703 2318 1780">◎</td> <td data-bbox="2326 1703 2834 1780"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1787 261 1959">環周境辺</td> <td data-bbox="261 1787 474 1959">工事エリアと工事車輛動線</td> <td data-bbox="507 1787 1279 1959"> <ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 </td> <td data-bbox="1288 1787 1537 1959">○</td> <td data-bbox="1546 1787 2059 1959"> <ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 </td> <td data-bbox="2068 1787 2318 1959">○</td> <td data-bbox="2326 1787 2834 1959"></td> </tr> </table>	学習・生活・交流	普通教室 (配置・採光・通風)	<ul style="list-style-type: none"> 南北に長い校舎となるため、外部に面した東、西側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 面積は小さいが、中庭からの採光と通風確保が可能。 	○		環周境辺	敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線)	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○		環周境辺	校庭 (日影・広さ・レイアウト)	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△		環周境辺	アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎		環周境辺	屋上活動エリアの確保 (プール・広さ)	<ul style="list-style-type: none"> 法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 屋上活動エリアは約900㎡確保可能。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 	◎		環周境辺	仮設校舎の有無	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○		環周境辺	工期とコスト	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎		環周境辺	工事エリアと工事車輛動線	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○	
学習・生活・交流	普通教室 (配置・採光・通風)	<ul style="list-style-type: none"> 南北に長い校舎となるため、外部に面した東、西側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 面積は小さいが、中庭からの採光と通風確保が可能。 	○																																																			
環周境辺	敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線)	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○																																																			
環周境辺	校庭 (日影・広さ・レイアウト)	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△																																																			
環周境辺	アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎																																																			
環周境辺	屋上活動エリアの確保 (プール・広さ)	<ul style="list-style-type: none"> 法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 屋上活動エリアは約900㎡確保可能。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 	◎																																																			
環周境辺	仮設校舎の有無	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○																																																			
環周境辺	工期とコスト	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎																																																			
環周境辺	工事エリアと工事車輛動線	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○																																																			

配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	C. 北側配置案 (仮設校舎あり)	D. 北西側配置案 (仮設校舎あり)	
配置イメージ			
学習・生活・交流	<p>普通教室 (配置・採光・通風) ○</p> <p>教室間の動線 (回遊性・距離) ○</p> <p>校庭 (日影・広さ・レイアウト) ○</p> <p>アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離) ○</p> <p>屋上活動エリアの確保 (プール・広さ) ○</p> <p>仮設校舎の有無 ○</p>	<p>普通教室 (配置・採光・通風) △</p> <p>教室間の動線 (回遊性・距離) △</p> <p>校庭 (日影・広さ・レイアウト) ×</p> <p>アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離) △</p> <p>屋上活動エリアの確保 (プール・広さ) ○</p> <p>仮設校舎の有無 ×</p>	
環境周辺	<p>敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線) △</p>	<p>敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線) △</p>	
工事関連	<p>工期とコスト △</p> <p>工事エリアと工事車輛動線 △</p>	<p>工期とコスト △</p> <p>工事エリアと工事車輛動線 ×</p>	